



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

オマーン、サウジアラビア：第19回GCC・EU合同評議会閣僚級会合の開催  
(4月30日付現地各紙)

4月30日付オマーン現地各紙及び、サウジ・リヤド紙は第19回GCC・EU合同評議会閣僚級会合について報じている。概要は以下の通り。

1. 4月29日、第19回GCC・EU合同評議会閣僚級会合がオマーンのマスカットで開催され、GCC側よりアラウィ・オマーン外相が、EU側からはシュワルツェンベルグ・チェコ外相（EU議長国）が代表を務めた。また、今回の会合にはアティーヤGCC事務局長、フェレロ＝ヴァルトナー対外関係担当欧州委員をはじめ、キプロス、エストニア、オーストリア、ルクセンブルグの外相等も出席した。
2. 第19回GCC・EU合同評議会閣僚級会合の共同声明（概要）
  - (1) GCC、EUは、FTA交渉再開に向け、未解決の問題について協議を継続する事に合意した。
  - (2) GCC、EUは双方間でエネルギー、環境、気候変動等の分野での協力が進んでいる事を強化し、特にクリーン・エネルギー技術及び高等教育分野での両地域間でのイニシアティブを歓迎した。
  - (3) 閣僚会合は相互の関心事項（地域及び国際問題）について協議し、双方は相互尊重の精神に基づくGCC・EU間の政治対話を推進し、国際法及び国連諸決議に基づいて国際問題に協調して取り組んでいく事で合意した。
  - (4) 閣僚会合は、中東和平の実現は地域の安定・繁栄のために不可欠である事を再確認し、アラブ和平イニシアティブを引き続き支持することで合意した。
  - (5) 閣僚会合は、イランの核問題については交渉を通じて解決が行われる事が重要であるとし、イランに対してはIAEAの要請及び国連安保理諸決議の遵守を呼びかける。
  - (6) 閣僚会合は、UAE三島問題がイランとの間で引き続き問題となっている事に改めて懸念を表明した。またイランによるバハレーン主権侵害の発言に懸念を表明しつつ、イラン政府によるバハレーン主権を尊重するとのその後の立場表明を評価した。
  - (7) 閣僚会合は全てのテロ行為を非難し、テロ撲滅に向けた努力が不可欠であり、アブドゥッラー・サウジ国王が提案した国際テロ対策センターの設立実現に向けた勧告を行った。
  - (8) 閣僚会合は、GCCによるIAEAとの協力を通じた核エネルギーの平和的利用への動きを歓迎した。
  - (9) 閣僚会合は、共存、中庸と寛容の精神を重要とし、アブドゥッラー・サウジ国王がイニシアティブをとっている文明・宗教間対話の重要性を強調した。
  - (10) GCC・EU双方はソマリア沖における全ての海賊事案を非難するとともに、船舶に対する海賊及び略奪行為が国際海運に与え得る影響について懸念を共有した。双方は国々に対し船舶に対する武力を用いた海賊及び略奪行為に対処していくために、国際海事機関（IMO）及び関連国際機関と協力する事を慫慂した。

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799